

1950年代初頭における マレー・ムスリムの社会認識・関心

金子 奈央

本稿は、創刊からの約2年間に『カラム』の「千一間」(1001 masalah)に読者から寄せられた質問と、それらに対する回答の内容分析を通して、この時期のマレー・ムスリムが、自らを取り巻く世界について、どのようなことに関心や問題意識を持っていたのかについて整理する。この時期のマレー・ムスリムが社会情勢にむけていたまなざしについて、その一部を「千一間」に寄せられた彼らの声から掘り起こしてみたい。

1. この時期(1950-1952)の『カラム』

坪井(2014)は、本稿が射程とするものと同期間に、『カラム』が掲載した写真および、その関連記事に焦点を当て、当該時期のマレー・ムスリム知識人の世界観についての考察を行っている。その結果、それらの記事および写真が世界中のニュースを網羅して取り扱っており、同誌の思想の様々な側面を代弁していること、また多様な階層の女性の写真の存在から、大衆誌としての性格も持ち合わせていたことを指摘した[坪井 2014]。

また、光成(2015)は、『カラム』掲載の広告の推移についての分析を通して、同誌が総合誌から宗教誌へと立ち位置が変化していく過程について論じている。創刊からの3年間は、多種多様な商業広告が挿絵付きで掲載されており、同誌が芸能要素などを含んだ総合誌的性格を持っていたことを指摘している[光成 2015]。

以上のことから、創刊当初の『カラム』が、国際的・近代的な消費物質が溢れる広告収入に支えられており、また掲載記事についても、イスラム世界の諸地域だけでなく、世界中を網羅した国際性豊かなものであったことがわかる。創刊当初から数年間、大衆誌的特色が色濃く表れていたこの期間に「千一間」に投稿された読者の質問内容全体を概観すると、読者として想定される主に都市部マレー・ムスリムが、他民族や他宗教との混淆性の高い都市部において、西洋近代の影響を

強く受けた日常生活や消費活動の中で、宗教的正しさをどの様に実践すべきかを模索していたことが見て取れる。本稿が取り扱う時期の「千一間」についても、イスラムに関連するものがその多くを占めており、飲食など日常の生活習慣や、結婚、離婚など家族問題についての質問が目立つ¹⁾。一方で、国際情勢や他国の文化習慣などに関する質問も多く、創刊当初から数年間の『カラム』の特徴である国際性も反映された質問についても見受けられた。

以下では、読者の質問および、それに対する回答を、「マラヤ情勢」、「マレー人社会の発展」、「隣国インドネシアへの関心」、「国際関係」、「『正しい』人間関係」の5つのキーワードから紹介し、当時のマレー・ムスリムの世界観や、問題関心について検討したい。

2. マラヤ情勢——国家建設に向けて

ここでは、近い将来達成するであろうマラヤの政治的独立にむけた枠組みを、マレー・ムスリム自身がどのように考え、検討していたのかについて、主に現在の半島部マレーシアにあたる地域の読者が投稿した質問を通して考えてみたい。

今すべきことは何か [Qalam 1951.11:37]

Q.158

今我々は何をすべきでしょうか。独立のための知識の追求か、あるいは敬虔な善行を実践するための知識の追求でしょうか。

A.158

敬虔な善行とは、一部の人間が思っているような、単にイバーダートを行い、昼夜アッラーへの称賛文句を座って唱えることだけを言うのではない。敬虔な善行とは、アッラーの命令や使徒ムハンマドのスナを忠実に守り、罪深きことや禁止事項をあまねく避けることを言う。善行の中には、イスラム教徒たちをまとめ、指導する責任も含まれる。もしあなたが敬虔な善行を

1) [金子2014; 2015]、本稿の光成論文を参照

追求し、それを実践したなら、あなた自身は独立することができる。あなたが母親のお腹から自由に生まれ出したのと同じように、誰かに支配されることはなく、ただアッラーの命令に服従するのみである。あなたの行くべき敬虔な善行とはこのようなものである。

指導者の模索 [Qalam 1951.6:17]

Q.113

人から愛される主催者あるいは指導者になるにはどうしたらいいですか。

A.113

イスラム教であれ他であれ、何かしらの歴史書を読めば、主催者あるいは指導者が誠実に主催あるいは指導したとしても、彼らは愛されもするし憎まれもするのが世の常であることがきつと理解できるだろう。多くの人に好かれ、愛される人は、それと同じくらい人から憎まれ、嫌悪されることは明らかである。

あなたもご存知だと思うが、具体的な例を挙げると、我らが崇拝する預言者ムハンマド(彼に神の祝福と平安あれ)は、罪がなく、信頼でき、正直で公正なる御方で、23年間イスラムの光を世界中に拡大した方である。しかし、彼にも敵がいれば、嫌う者もいた。

したがって、もしあなたが主催者や指導者になりたければ、人からの侮辱、中傷や裏切りは一つの試練として見なすべきである。さらに、正直で信頼でき、忍耐強く聡明でなければならない。この性質こそが主催者あるいは指導者の条件であり、生きている間に名声を得ることができなくても、神の御心ならば、あなたの死後、きつと世界のあちこちで名が知られることだろう。

「正しい」先導者の選択 [Qalam 1952.6:16-17]

Q.227

マレー人指導者が率いる3政党、すなわちUMNO(統一マレー国民組織)、マラヤ独立党、PAS(全マラヤ・イスラム党)のうち、どこに入党したらいいと思いますか。

A.227

この質問に回答する前に、ここでまず説明しておきたいのは、三党のうち、組織と統制がきちんとしているのはUMNOだけだと思われることである。UMNOの党員はマレー人で構成されており、党則に則ってマレー人の権利を勝ち取るために常に戦っている。ゆえに、UMNOが三党のなかで最も有名だと思われる。残りの二つのうち、一つの党に関しては、その支持者の大半はマレー人ではない。その証拠に、その党の指導者がインドから帰国した時に行った公式演説の際、聴衆のほぼ100パーセントがインド人であったと伝えられる。このことからして、我が民族を代表する党からはほど遠いことが分かる。

一方、この質問が宗教という観点に基づいたものだとしたら、3党の宗教活動を見ると、彼らは宗教的实践から逸脱していると言える。その上、もし彼らのなかに(将来独立したときにイスラム法ではなく)他の法を採用する者がいたとしたら、彼らは異教、非道、そして大罪集団と見なされるだろう。コーラン「食卓」の章第41、45、47節や、その他数多くの節の中で、アッラーの下した律法以外は信仰してはならないことが示されている。

我々の指導者となる人物は、信仰心のある者の中から選ばなくてはならない。そうすれば、確実に勝利を得ることができるからだ。信心深い人物は、必ずアッラーの命令に従い、謙虚で、不信を抱くことはない。コーラン「食卓」の章第55節の中で次のような啓示がなされている。

「汝らの保護者は、神と預言者、そして礼拝に努め、喜捨を施し、ひれ伏し拝む信者たちのみである。」

使徒ムハンマドはおっしゃった。「もし奴隷であっても、彼が啓典に従ってあなたたちを指導する限り、彼の言葉を聞き、彼に従いなさい」(アーマッド、ムスリムとティルミズイーの伝承によるハディース)

指導者に関して信徒に教示する節は数多くある。その内の一つは次の通りである。

「見よ、汝らは彼らを愛するが、彼らは汝らを楽しめてはいない。汝らは啓典の全てを信じている。彼らは汝らに会う時、『我々も信じている』と言う。しかし、彼ら仲間うちで語り合うときには、汝らに対して抱く敵意の激しさに指先をかむ」(コーラン「イムラーン一家」の章・第118節)。

この他に、民族意識を基盤とした連帯を禁ずるハディースがいくつかある。そのひとつを挙げる。

使徒ムハンマドはおっしゃった。「部族意識を煽り、またはそれを支持して無分別な集団の下で戦って殺された者は、ジャーヒリーヤの死に方をしたのである」(ムスリムの伝承による真正ハディース)

この他にも、その一族がアッラーの律法以外を法として定め、アッラーの教えを守るため以外に働くことをひどく嫌悪し、非難する文言が数多くある。以上の説明が、質問者にとってどの組織に入党するかを選ぶ手引きとなることを願う。我々はただ次のことを進言したい。すなわち、最善の勤めと努力とは、アッラーの教えを守るために働くことであり、それによってのみ成功が得られるということである。

指導者層への懸念 [Qalam 1951.11:36]

Q.154

知識人たちは、この混沌とした状況にある我々民族と祖国をいつになったら率いることができますか。

A.154

それは各々の心情や憂慮する気持ちにかかっている。勉強によってではなく、各々の精神と心によって自覚は生じるのである。自分の民族が嘆かわしい状況にあるのを目の当たりにして初めて、自らの享楽や贅沢を全て犠牲にする覚悟ができるのである。「非道は自覚の基盤である」というマウラナ・アブドゥル・カラム・アズハドが語った言葉に間違いはない。我々は抑圧されない限り認識や自覚をすることはない。なぜなら、あらゆる欲望の原因となる目先の享楽や贅沢に皆我を失ってしまうからである。

マレー人指導者に求められる資質 [Qalam 1952.2:30]

Q.183

宗教を軽視したがるイスラム教徒のマレー民族の指導者は、法的にはどうなりますか。

A.183

とりわけ宗教を無視したり軽視したりする者は、誰であれ宗教の法に違反することになり、その人物は背教者に数えられる。

対抗勢力の必要性や役割 [Qalam 1950.3:32]

Q.4

UMNOやその支部のような協会の組織において、委員会の中に反対派を組織するべきでしょうか。

A.4

各協会もしくは団体における委員会の中に反対派を組織することは必須ではないと考える。なぜなら、協会または団体の政策目的は同じであり、委員は協会または団体の政策や目的を共有した会員や成員から選ばれ、任命されるためである。

委員はその協会または団体の会員の一部、またはその一派だけを代表しているのではなく、協会やその会員全てを代表する。したがって、徒党を組む必要はなく、協会やその会員にとってよしいと思われる如何なる事も提案・支持できるし、また非合理的でよろしくないと思った事に対して反対することができる。

Q.5

英国議会における「野党」はどのような状況か、ご意見を下さい。

A.5

英国議会の野党は、与党と異なる政策や政治目的を持つ人たちが構成されている。現在は労働党が政権を握っており、長老派（保守党）が野党となっている。すなわち、保守党の政策目的は与党である労働党とは異なるのだ。

他民族および他宗教との関係

[Qalam 1951.11:36-37; 1950.11:38]

Q.157

ここマレー半島はマレー人のもので権利を持っており、イスラムを宗教とする国で、非イスラム政府の保護下にあります。ある集団が混合した一つの民族のもとでマラヤの政治、社会、経済的な権利を平等化しようとした場合、それは（イスラム法からみて）合法ですか。

A.157

イスラム法にしたがえば、民族をつくることは禁じられている。預言者ムハンマドは次のようにおっしゃった。

「人々に部族意識を煽る者は我が共同体の一員ではない」(アブー・ダウードによる伝承)

ムスリムによって伝承された真正ハディースにも次のように記されている。

「部族意識を煽り、またはそれを支持して無分別な集団の下で戦って殺された者は、ジャーヒリーヤ[イスラム以前の無明時代]の死に方をしたのである」

これら二つのハディースから分かるように、マラヤにおいて混合した民族をつくることは禁止である。なぜなら、イスラムの教えでは、非イスラム教徒に対して敬意を示しつつ、同じイスラム教徒同士の団結や兄弟関係を築くべきとされているからである。したがって、そうした集団をつくるというそのやり方は明らかに宗教により禁じられている（より詳しくは『カラム』第15号の「イスラム、政治、民族主義」を読んで頂きたい）。

Q.17

非イスラムの政府がイスラムに関する統治を行うことはできますか。

A.17

その施策がイスラムの法と規則に則っている限り、イスラムの国を治める非イスラムの政府が宗教に関する統治を行うことができる。

州評議会の構成員 [Qalam 1951.7:65]

Q.125

マラヤにおける州参事会の長は誰ですか。

A.125

マレー諸州の州立法参事会の長は州首相であり、海峡植民地の各地では常駐弁務官が長を務める。また連邦参事会の長は高等弁務官である。マレー統治者立法参事会はスルタンの内一人が輪番制で長を務める。シンガポール立法参事会は知事が長となる。

宗教と高等教育 [Qalam 1952.1:35-36]

Q.170

なぜマラヤには宗教教育の高等学校がないのでしょうか。

A.170

高等学校(イスラム・カレッジ)を設立する計画は既に進められていて、そのための寄付金も集められている。なぜなら、時代の状況に適したイスラムの高等学校を持つ必要性が感じられているからである。しかし残念なことに、この計画は進展しておらず、集まった寄付金はその目的を達成するためにはあまりにも不十分である。

宗教の高等教育を行う一方、より関心を向けるべき重要なことがある。マラヤ全土の宗教局が宗教教育の方法を統一し、同一化、整備を行うことである。現在地方で教育方法自体が各学校によってばらばらで、さらに各州の間においても統一が取れていない。これを統一することが不可欠であり、そこから各州により高い段階として高等学校が設置されるだろう。この目的を達成するには、高等学校の設立よりも重要なことがある。それは、普通学校の教師が同一の教育知識を持てるよう、師範教育を実施することである。現在一部の場所ではそのようなになっていない。教育の専門ではない人間が審査しただけで、宗教局は簡単に教師の資格を与えている。

3. マレー人社会の発展

マレー・ムスリムの読者たちは、他の民族と比較した際、自らの社会経済的立ち遅れについても、強い問題意識を持っていたことが、相談内容から明らかになった。自らの社会経済的立ち遅れを、マレー人自身に問題があると考えているものが多く、他の民族にその問題の所在を求めるものはなかった。

経済の発展 [Qalam 1951.8:39]

Q.127

マレー人が商業を発展させるにはどのようにしたらいいですか。

A.127

他の人たちが発展したのと同じように、信念、信頼、誠実さ、忍耐強さ、勤勉さ、努力があればマレー人も商業を発展させることができる。また、コンセンサス、相互扶助、相互理解と俟約が必要である。その他にも、多少の商売の知識があり、既に発展を成し得た人たちの努力をいつも注意深く観察することが必要である。

マレー人が商業を発展させることができると私は信じている。我々が事業を始めるべき場所は村落である。村落には多くのマレー人が住んでおり、まずはここで商売や事業を起すべきである。独りで立ち上げるのが難しい場合は集団で行い、会社のやり方に従い、すべて

の売買を行わなくてはならない。なぜなら、他の人をあてにして自分たちの商業や事業を発展させることはできないからである。我々自身の力で発展させなければならない。

村落での事業が成功し発展したら、今度は町で、全員で会社を作り、事業経営を試みる。村落の商業や事業の店舗は、その全ての目的と意志を、今度は町の会社店舗に集中するのである。

この方法に従えば、今度は都市部で事業を拡大することができる。そして都市部から今度は海外へと事業の翼を広げることができるだろう。

このような事業を行うことは簡単ではないが、コンセンサス、相互協力と相互扶助をもってすれば、急速で安定した成功を得ることが可能だと信じている。

有力者から地位のある人、大衆、そして特に宗教教師に至るまで、我が民族の各階層が常に協力の精神をもち、相互協力、相互扶助を我々の心に落とし込めばよい。

我々マレー人の商業や事業の発展の秘訣はここに隠されている。

Q.196

なぜ我々マレー人は商売に対して意欲を持っていないのでしょうか。

A.196

大きな要因は、おそらく仕事を楽に行おうとするからである。彼らはあまり努力しようとせず、多くの人は自分の力と努力を信じようとしないし、意志が弱く自分の力に自信を持ってない。

教育問題 [Qalam 1951.8:39-40]

Q.129

なぜ大都市に住むマレー人児童はあまり成績がよくないのですか。

A.129

都市部に住む全てのマレー人児童の成績が悪いわけではない。しかし、8年生や9年生に進級する頃、大部分の児童は勉強があまり進まなくなると言える。専門家の意見によると、その理由は、都市部のマレー人児童たちが学校教育や勉強に対する責務を疎かにする、あるいは迷わすような様々な試練に出くわすからである。

その試練は過度の放任状態により生じており、一部には両親からの管理を受けていない児童もいる。試練があまりに多いため、学童としての責務を強く自覚している子供を除き、学校に通うよう管理しなければ逸脱する子供はなくなる。

農村部マレー社会のイスラム知識 [Qalam 1952.1:37]

Q.175

村落に住むマレー人の多くは宗教の教えを知りません。そういった彼らが屠殺した肉を食べることはできますか(ハラルですか)。

A.175

屠殺の条件は、アッラーの名のもとに鋭利な刃物で喉元の筋を切り落とすことである。この方法に従えば、その肉はハラルである。

マレー人の道徳心 [Qalam 1952.7:19]

Q.239

マレー人は地位や職位が高くなると横柄になり、例えば自分の民族のことを気にかけなくなります。他の民族はそうでもないようですが、なぜマレー人はそうなのでしょうか。

A.239

横柄になるかどうかはそれぞれの人物次第であり、またそれぞれの民族次第である。しかし、全ての人がそうだとは言えないだろう。なぜなら、彼らの中にも愛想が良く、謙虚な人は大勢いる。地位が高くなればなるほど、より謙虚になる。その理由はおそらく、彼らは「稲の知恵に従い、実るほどに頭を垂れなさい」という諺にあてはまっているからである。

また、人が横柄で頭が高くなるのは中身がないからである。実りのない稲穂は頭を垂れずにまっすぐ上を向き、風に吹かれるままに揺れるのと同じである。同時に信仰心が足りないからである。つまり、アッラーによって授けられた自分の財産、収入や地位に対し感謝の念がないからである。本来ならば、アッラーにひれ伏し、能力に応じて謙虚になるべきである。

4. 隣国インドネシアへの関心

この時期「千一問」に寄せられた読者の質問には、世界情勢や、他国、他地域の文化、習慣等に関心を寄せているものも多く見受けられた。その中でも、隣国インドネシアに関するものが最も多く、そのトピックについても、文化、慣習、宗教、政治など多岐にわたる。

国名の由来 [Qalam 1950.3:32]

Q.8

インドネシアの名前の由来は何ですか。

A.8

インドネシアとは、かつてオランダ領東インドと呼ばれたマレー諸島全域を指す名称として定められた。

Q.9

誰が初めにその名前を付けたのですか。

A.9

インドネシアという言葉はドイツ語に由来する。INDUSとNESOSという2つの語から成り立っていて、INDUSはインド洋へと流れるインドの川のこと、NESOSは島々を意味する。つまり、インドネシアという単語の起源は、インダス川の河口に広がった島々という意味である。

この名前が全インドネシア民族の統一にとって合理的かつ相応しいと考えられたため、インドネシアの指導者たちは、その名を引き続き受け入れ、インドネシア政府のもとに入った島々を指す公式な名称とした。

映画スターの宗教実践 [Qalam 1952.4:16]

Q.206

マラヤやインドネシアの映画スターは礼拝や断食などといった宗教の道を厳守していますか。

A.206

我々が知る限り、大半の映画スターはそのような事柄を厳守していない。いたとしても、我々の知る限り100人に1人である。それどころか、役者たちの仕事は、とりわけ男女の交際に関するイスラム法の重要な部分に違反している。

歓待とイスラム法 [Qalam 1952.4:16]

Q.204

インドネシアやエジプトなどのイスラム諸国では、外国から使節が訪れた時、たいていウェルカムドリンクを提供します。その際、どのような飲み物が出されますか。また、イスラム教においては法的にはどうなりますか。

A.204

外国人であろうと、来賓をもてなすことが望ましい。イスラム教徒にとって訪問者に敬意を表すことは義務である。使徒ムハンマド自身もユダヤ人が訪問した際、座っていた場所から立ち上がり、彼らを歓迎した。現在におけるイスラム教にもとづく諸国とは、おそらくパキスタン、サウジアラビア、そしてイエメンである。我々の知る限り、パキスタンでは外国人をもてなす飲み物として酒を出すことはない。インドネシアとエジプトは、その住民のほとんどがイスラム教徒であるが、イスラム教に基づいた政治を行っているわけではない。そのため、なにかが起こったとしても、イスラム国家の位置づけとしてそれを判断することはできない。

大臣の宗教 [Qalam 1952.6:18]

Q.230

『カラム』第11号の21ページに掲載されている写真

で、黒いソンコ[男性用の帽子]を被って写っているスワラト農業大臣(カトリック)の宗教は何ですか。

A.230

スワラト氏はスキマン内閣の農業大臣となり、現在はウィロパ内閣で公共事業大臣となった。その時の写真が『カラム』第22号に掲載されている。彼らはインドネシアのカトリック組織の代表であり、宗教は明らかにローマ・カトリック(キリスト教)である。

ウラマーの服装 [Qalam 1951.5:38]

Q.107

金曜の礼拝や祝祭の際に、この地のウラマーが裾のとても長いジュバを着て、きつく張ったターバンを巻いていたことに驚きました。インドネシアのウラマーは単なる普段着を着ており、一部の人はネクタイを絞めています。ジュバとターバンを着用した方が、より礼拝のご利益がありますか。

A.107

宗教は、あれやこれやの服装を着させたり、命じたりしていない。服装とは、アウラを隠し、清潔さを保つためのものである。このため、ジュバやきつく張ったターバンを着用して礼拝したからといってより多くのご利益があるわけではない。考慮に入れるべきは、真剣に、また誠実に神と向き合うことである。

金曜礼拝 [Qalam 1951.7:12]

Q.120(012-01)

シンガポールに来たばかりのインドネシア人の友人が、金曜の集団礼拝を終えてマスジド・スルタンから出てきた時、人々が金曜の集団礼拝の後にズフルの礼拝[正午過ぎの礼拝]も行っており、ズフルの礼拝をしている人たちの目の前を多くの人たちが横切っているのを目にして驚きました。そこで、次のような質問をしたいと思います。

礼拝中の人の目の前を横切ることは禁止されていますか。もしそうなら、金曜の集団礼拝の後にズフルの礼拝を行うことは、人々にモスクで罪を犯すことを促すことになりませんか。

A.120

シンガポールの多くのモスクでは、シャーフィイー学派に従って礼拝を行っている。シャーフィイー学派の判断では、金曜の集団礼拝を行うモスクはひとつの国の中に一カ所のみ認められている。しかし、この考え方に反対する教友らもいる。都市部の住民にとって、金曜の集団礼拝のモスクが一カ所だけだと、通うのが難しいからだ。

このような意見を受け、一部では複数の場所で金曜の集団礼拝を行うことを認めたが、彼らも金曜の集団

礼拝の目的をないがしろにしている。その目的とは、みんなで考え、議論するべき重要な出来事に関して助言を聞くために、イスラム教徒たちが集まるということである。それゆえ、ひとつの地域に金曜の集団礼拝を行うモスクが多数存在することを「複数の金曜礼拝」と言う。こうした礼拝を使徒ムハンマドは行ったことがない(但し禁止はされていない)。既存の指定された一カ所のみが金曜礼拝のモスクとして有効であり、その他のモスクで行うことは無効であるという見解を持つウラマーもいる。別のモスクで行う礼拝の有効性に疑念を持つゆえに、金曜礼拝の後にさらにズフルの礼拝を行うのである。ここで明らかなことは、別のモスクで金曜礼拝を行う人たちは、そこで行った礼拝の有効性に疑念を抱いており、有効性に疑いのあるイバーダートを行ってはならないということである。

一方、現在では様々な場所での金曜礼拝を許可する意見がある。その理由は、モスクにおける説教が大衆に利益をもたらさない場合があるからだ。それゆえ、上述した目的を果たすため、その時代に合った説教を行う別の金曜礼拝を行うのである。彼らの意見では、マスジド・ジャメ[金曜礼拝を行うことが認められた既存の大規模なモスク]は、金曜礼拝の宗教的要求と原則を果たしていないという。それは、我々が知るマスジド・ジャメのカティブ[金曜礼拝で説教を行う人]の説教は、たとえマレー語に訳されて我々が理解できたとしても、そのマレー語は墓に入るようなものだからである。金曜礼拝が目的と要求を果たし、利益をもたらすようになれば、彼らはズフルの礼拝を止め、別の場所での金曜礼拝を喜んで中止するつもりでいる。

端的に言うと、金曜礼拝の後にズフルの礼拝は使徒ムハンマドによって行われたことはなく、彼の教友や4人のイマームらによっても行われたことがない。つまり、この礼拝は単にウラマーの解釈や考えに従って行われたもののなのである。

さて、今度は礼拝中の人の前を横切ることについて見てみよう。使徒ムハンマドのハディースによると、礼拝中の人の前を横切ることは大変な拷問であり、横切ろうとする者がいたら阻止せねばならない。もし阻止されるのを嫌がるようであれば、強硬な手段を行使してもよい。無知ゆえに礼拝中の人の前を横切ることはどこのモスクでも起こっていると言える。特に金曜礼拝後のズフルの礼拝中に非常に頻発する。なぜなら、金曜礼拝の時間が終わると、アザーンや礼拝の最中に人々がモスクから出てきて、思わずズフルの礼拝中の人の前を通過してしまうからだ。こうした事態を鑑み、そのシンガポールのウラマーは次のことを考えなければならない。すなわち、(1)このようなイバーダートを使徒ムハンマドが強く禁じたこと犯しながら続けるの

か。宗教上根拠のないイバーダートを作り上げることは、禁止事項に該当する行為とならないだろうか。

5. 国際情勢

国際情勢に関する質問内容は、この当時の時代性を色濃く反映しており、共産主義や、冷戦による東西対立、国際連合、朝鮮戦争などについても読者の関心が向けられていたことが明らかとなった。

他地域のイスラム諸国の文化

[*Qalam* 1950.11:39; 1951.1:32]

Q.22

インド、エジプト、アラブのイスラム教徒は、結婚したら男性は(我々がよくするように)義理の親と住みますか。それとも妻を自分の両親の家に連れてきますか。

A.22

どこの人であろうとその状況は同じである。それぞれの状況に応じて、持てる人たちは家族の人数が増えることをきっと好むだろうし、持たざる人たちは断念せざるを得ない。

Q.32

国土に砂漠が多く、暑い気候にもかかわらず、なぜアラブの人々はジュバ[袖や裾が長い衣装]や厚手の服を着ているのですか。

A.32

アラブの人々がジュバを着ているのは、それが彼らの衣装だからである。ジュバは強い日光による猛暑から身体を遮蔽または保護する役目がある。また、汗をかいたとき、服の内部が常に湿っていることによって身体を冷やす役目もある。さらに、アラブや他の砂漠地帯では決まって砂嵐が起こるが、その時吹き込んでくる砂から身体を守るためにも、ジュバやその知恵が多く利用されている。

国際連合 [Qalam 1951.2:41]

Q.52

国連の会議に参加する各国の代表は何人いますか。

A.52

国連に加盟する国にはそれぞれ一票の権利が与えられているため、各国の代表は一人となる。しかし、各代表には顧問と通訳の一行が随行している。

Q.53

その会議において使用される言語は何ですか。

A.53

一般に使用される言語は英語であるが、各国の代表は

自身の言語で話し、自分たちの通訳官がそれを翻訳する。

Q.54

60カ国が国連に参加しています。各加盟国は、国連軍の一員として朝鮮戦争の戦地へ兵を派遣していますか。

A.54

加盟国のなかには国連軍として朝鮮に派兵しない国やまだしていない国もある。既に兵を派遣している国はアメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド及びトルコである。ソ連とその友好国は派兵に反対している。

国際情勢の発信者 [Qalam 1951.6:17]

Q.112

新聞の各記事の末尾に書かれている「ロイター」という言葉はどういう意味ですか。

A.112

ロイターとは、大きく有名な通信社のことである。この通信社は世界中に代理人があり、ニュースを探し、収集し、それを支局あるいはロンドンの本社に電報で送る。そのニュースが重要であった場合、世界中の全ての支局に送信され、支局はそれを編集し、記事を書く。その後、新聞や実業家などの購読者へと配信されるのだ。

ロイターとは人の名前で、彼はドイツ人であったが後にイギリスの国籍を取得した。特に貿易に関するニュースを伝書鳩を用いていち早く届ける方法を最初に編み出したのがロイターであった。鳩の足に手紙を結び付けて放すと、鳩はまっすぐ巣へ飛んで行く。

その鳩を捕まえ、足に結んである手紙を回収する。このような伝書鳩を用いた方法により、地域の大きい町と港との間の距離が数十あるいは数百マイル離れていたとしても、両所の貿易に関するニュースをいち早く届けることができたのである。その後電話線と電信施設を使用することにより、ロイターは事業をより拡大し、より高速化することができた。ロイターという名前は、彼の死後も社名として採用され、現在まで残っている。

共産主義

Q.244

なぜ多くの人が共産主義を非難し、その思想と戦うのでしょうか。

A.244

我々イスラム教徒にとって、共産主義思想が物質主義のみにもとづくものであることは明らかである。個人の権利と能力を奪い、イスラムの教えに反するもので

ある。

物質主義だけを規範とするということは、神の力の存在を否定することを意味する。なぜなら、彼らの考えでは「宗教の思想は単なる贅辞に過ぎない」からである。彼らの考えでは、この世で起こることは全て自然現象であり、そこに神の力は存在しない。しかし、彼らは次のことを忘れていた。例えば、もし一脚の椅子を見れば、我々はすぐにそれを作った人がいることが頭に浮かぶ。同じように、我々にも創造主が存在するのである。すなわち、至高なる讃えられるべきお方アッラーである。

また、共産主義のもとでの個人の権利についていえば、個人の権利は廃止される。彼らは産業の共有化の政策を取り、防衛とともに国の権利とする。共産主義がもたらした惨劇について、ここマラヤで出版された著作から見聞きできる。そこでは、彼らは自分たちの理想を実現するため殺害や流血という暴力的手段を行使する。それにより、彼らの地域を支配し、彼らの思想を植え付けるのだ。もし、他国でこのような行動をとったならば、今後彼ら自身が権力を手中に収めたら、彼らはさらなる暴挙に出て、さらに恐ろしいことになるだろう。

また、共産主義はイスラムの教えにも反する。イスラムの教えでは、アッラーが創造したこの世界において真面目に、熱心に繁栄を追求することを人々に奨励し、怠惰な人間を厳しく非難する。しかし、人が財を成した際はザカート・ハルタの支払いが義務づけられている。それはとりわけ貧者や困窮者に、そして一般には社会福祉のために分配される。他にも、同胞を助けるために寛大にサダカを与えることを奨励している。これにより、人類の状況や性質に応じて、自身の努力によって利益を得る自由が公平に与えられる。以上が、多くの人が共産主義思想を非難する理由である。

Q.212

共産主義思想に従うイスラム教徒は宗教をもたないとは本当でしょうか。

A.212

周知の通り、共産主義の思想と行動は単に物質主義に基づいたものであり、それ以外の信仰を持たない。彼らの規則では個人の権利は認められないが、イスラム教はそれを認めている。イスラム教は神の存在を原則としているが、共産主義者は神の存在を信じない。彼らの考えによれば、神とは人間がつくったものに過ぎない。よって、共産主義の思想に真に従う者は、イスラム教徒ではなく、神の存在を否定する思想を持つ背教者である。

東西対立 [Qalam 1952.1:38]

Q.179

東西の対立のなかで、250万人いる我が民族はどのような立ち位置に在るべきでしょうか。

A.179

この質問はあまり明確ではない。何の対立について聞いているのだろうか。しかし、我々が現在直面している東西の交流と習慣における対立を意味していると解釈できる。我々の考えでは、イスラムの教えに従うことが安全かつ最善である。なぜなら、イスラム教によって政治的にも文化的にもこの世が救われることを、賢い人なら自覚できるからである。もし国家間の対立、すなわち西洋諸国の支配からの独立を要求する東洋の人たちについて質問が向けられているのなら、我々の置かれている状況からすると、風に従わざるを得ない。なぜなら、自分たちの上に立つ人間は誰かを知っているからである。要するに、様々な状況下で今我々が置かれている立場は、彼らの間で対立が起こった場合、次の諺にあるような状態にある。「象と象が喧嘩すれば、真ん中にいる子鹿は死んでしまう」。我々がいるのはまさに真ん中である。団結していないと、我々は単なる道具になってしまうだろう。

6. 「正しい」人間関係

当時、多様な差異に囲まれていた読者にとって、どのように振る舞うことが、社会を構成する一人として「異なる」隣人たちと「正しい」関係を築くことができるのかは、重要な関心事項のひとつであったことが、質問内容から伺える。

持続可能な友情 [Qalam 1950.12:9] [Qalam 1952.8:27]

Q.24

人との友情を長続きさせるにはどのような方法がありますか。

A.24

人との友情の絆を強めるにあたって一番いいアドバイスは、良き振る舞い、礼儀正しさ、丁寧に話すことである。歩み寄り、譲歩し、思いやることである。

Q.245

友情を長続きさせるにはどのような方法がありますか。

A.245

友情を長続きさせる方法は、両者が多寡なく分け合うこと。相手にこびるのではなく、お互い助言し合うことである。意見の対立があった時は、自分の考えだけに従って相手に自分の意見を強要してはならない。も

し友人の考えが適切で、また宗教の命令に反する行いをもたらすことがなければ、その考えを受け入れればよい。もし友人のためにその希望に従うと背信行為を行うことになるなら、関係を続けてはならない。なぜなら、災難をもたらすからだ。よく注意して友人を選びなさいという老人たちの格言があるが、もし善良な人と友人になれば、多かれ少なかれ自分も善良になれるし、もし盗人と友人になれば、多かれ少なかれ自分も盗人になる。よって、親交を結ぶべき友人とは、よいことをもたらし、許容し合うことを知り、笑っている時でなく、苦しい時に来てくれる友人でなければならない。

年上の友達をもつこと [Qalam 1950.12:9]

Q.25

同じ歳ではない人と友達になるのはいい事ですか。

A.25

自分より年長の人と友人になることは若者にとっていいことである。なぜなら年長者の良き人生経験からメリットが得られるからだ。一方、年長者も自分の良き人生経験が若者を良い方向へと導くことができるよう、若者と友人になるのはいい。その目的以上のメリットはない。

人から尊敬されるには [Qalam 1951.1:33]

Q.39

他人に尊敬されるにはどうしたらよいですか。

A.39

他人を尊敬しなさい。そうすれば自分も人から尊敬される。人に対して礼儀正しくあれば、人も自分に対して礼儀正しくなる。

「正しい」娘／息子であるには [Qalam 1951.6:16]

Q.109

両親を喜ばせるためにはどうしたらいいですか。

A.109

両親を喜ばせる方法は、良い行いをし、礼儀正しくあり、両親や他の人に対して優しくすることである。また熱心に勉強をして、学業や学究において優秀な成績を取ることも両親を喜ばせることになる。

両親を喜ばせることは宗教、社会や慣習による使命である。なぜなら、母親のお腹にいる時から大人に至るまでの間、育ててくれた両親の恩に報いることができる子供はいないからである。わずかではあるが恩返しとしてできることは、とりわけ両親が年老いた時に喜ばせることである。両親が年老いた時、子供は両親に対する哀れみの翼を広げなくてはならない。彼らに対して怒って舌打ちをしたり、怒鳴って叱りつけたりすることは絶対にせず、優しくすることがイスラムの教えである。

おわりに

本稿が取り扱った1950年の『カラム』創刊から2年間の時期は、最も大衆誌としての特色を持ち合わせていた時期であった。この当時の「千一問」を概観すると、その質問内容に多種多様なトピックが含まれており、彼らの問題関心が多岐にわたっていたことがわかる。また、彼らに関心を向けていた範囲についても、自分という個人から、身近な家族、地域コミュニティ、マラヤ、インドネシアなどの隣国、他のイスラム地域、アメリカなどの欧米諸国と、同心円状に広がっていた。

当時、読者を取り巻く世界は、様々な問題に直面していた。西洋近代的な価値観や文化の影響力の拡大、それに伴うコミュニティの道德心や信仰心の揺らぎ、多様な民族および宗教が混淆する近代国家としての独立、共産主義、冷戦下の東西対立など、読者が自らとの繋がりのある問題として意識し、見渡していた空間についても、広範囲に渡っていたことがわかる。自らとは「異なる」人々、文化および習慣、地域や国、思想について、どのように異なっているのかを理解し、その差異をどのように捉え、自らの立ち位置を定め、「異なるもの」との関係性を築くことが、「正しさ」を実践することになるのかについて、マレー・ムスリムの読者が模索していた姿が、当時の読者投稿から垣間見ることができたのではないか。

参考文献

- 坪井祐司 2014 「カラムが切り取った世界——写真が語る東南アジア・ムスリムの世界観」坪井祐司・山本博之編『『カラム』の時代Ⅴ——近代マレー・ムスリムの日常生活』(CIAS Discussion Paper No. 40) 京都大学地域研究統合情報センター、pp.19-23.
- 金子奈央 2014 「マレー・コミュニティにおける家族・子ども・教育」坪井祐司・山本博之編『『カラム』の時代Ⅴ——近代マレー・ムスリムの日常生活』(CIAS Discussion Paper No. 40) 京都大学地域研究統合情報センター、pp.24-28.
- 金子奈央 2015 「読者の日常生活におけるハラル」坪井祐司・山本博之編『『カラム』の時代Ⅵ——近代マレー・ムスリムの日常生活Ⅱ』(CIAS Discussion Paper No. 53)、京都大学地域研究統合情報センター、pp.32-36.

光成歩 2015「大衆誌から宗教誌へ——広告にみる
カラム誌の立ち位置の変遷」坪井祐司・山本博
之編『『カラム』の時代Ⅵ——近代マレー・ムス
リムの日常生活2』(CIAS Discussion Paper
No. 53)、京都大学地域研究統合情報センター、
pp.28-31.